

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu  
蒼穹

2016.12 Vol.125



第50回を迎えた松本大学「梓乃森祭」を開催(詳しくはP.9をご覧ください)

**特集**

**多彩な情報を発信する**

**松本大学図書館** .....

**P.02**

● 着実に成果を上げる本学の教員養成 ..... P.04

● 学生の学びを支援～正課外講座の成果表れる～ ..... P.05

● 「防災」テーマに進める人づくり・地域づくり ..... P.06

● 学舎を彩る半世紀の節目としての「梓乃森祭」 ..... P.09

● 第7回「松本大学地域貢献大賞」決まる ..... P.10 ほか

# 多彩な情報を発信する 松本大学図書館

今年度、松本大学図書館では、本の配置を大幅に見直して必要な情報とつながりやすくしたほか、地域に開かれた講演会、学生の学習を支援する講座、図書館に親しむための各種イベント、iPadの貸し出しなどを新たに実施してきました。“学生の居場所”として進化する松本大学図書館の今をご紹介します。

松本大学図書館長 伊東 直登



松本大学図書館は3階建て。2階の入り口を入ると正面に職員が常駐するカウンターがあります。訪れた方の中には、左手に並びテーブルで会話や飲食をする学生を見て、びっくりする方がいるかもしれません。

近年、図書館が様変わりしようとしています。戦後日本に近代図書館の仕組みが導入されて以降、その充実に向けてさまざまな取り組みが続けられてきました。その中でつくられた図書館のイメージは、本が置かれ、読んだり借りたりすることができ、そして“静謐”を求められる場所、いわゆる「読書の館」です。

最近の図書館界の動きは、本だけでなく図書館にあるさまざまな情報や機器を使って、仕事や生活、研究などの課題解決

を積極的に支援しようというものになっています。そのために、議論ができたり、各種の交流の場を提供したりする図書館が増えていきます。

図書館にある情報は神羅万象にわたります。それを有効に使い、こうした活動を実現するのは、静かな読書の場を提供するだけの図書館では限界があるのではないかとのことなのです。

その動きの一つが、全国の大学が競って図書館に導入している「ラーニングcommons」です。ここでは、学生たちが飲み物やときには軽食を食べながら、気軽にグループでレポート作成やワークショップをしています。会話や食事という、今まで図書館が拒んできたものが、新たな図書館の姿の一つとして形を現し始めています。

それにつれて、本を静かに読むだけの場であった図書館のイメージが変わりはじめ、今までと違ったさまざまな形での利用や、新しい図書館のあり方を求める皆さんが増えています。



図書館で開いたブックコート講座

そのためには図書館も変わらなければなりません。本を棚に揃えて来館を待っているのではなく、図書館という「場」や、そこにある多様な情報の有益な利用について、積極的に提案をしていかなければならないと考えています。それは、図書館の新しい利用者を生み、多くの皆さんに必要な施設として成長するということなのです。

“情報センター”としてあらゆる利用者の役に立つ図書館。それは一朝一夕でできるものではありませんが、本学も一歩一歩進化を続けたいと考えています。



学生たちが気軽に利用する館内

## 松本大学図書館

## INFORMATION

ガラス張りで見ると開放感あふれるスペースに、約10万冊の蔵書があります。DVDやビデオ鑑賞のためのブースも設置されており、個人・グループ学習用の専用スペースも完備。学内関係者はもちろん、学外のみなさんどなたでもご利用いただけます。

○開館時間 毎週月～金曜日 午前9時～午後8時30分/毎週土曜日 午前9時～午後5時

※日曜日・国民の祝祭日、夏季休暇中の土曜日、お盆休暇、年末年始は休業。

※都合により、急な開館時間の変更や閉館がありますので、学外の方は事前に確認のうえ利用してください。

○お問い合わせ先 0263-48-7206(直通)



## 社会人に向けた司書講座も開講

松本大学松商短期大学部は、長野県の中信地区で唯一、図書館司書資格が取得できる大学で、図書館司書フィールドで学生たちが専門的に学んでいます。また、講義を「図書館司書講座」として社会人に広く開いていることも、大きな特色となっています。

司書は図書館の専門職です。その仕事は、所属する図書館が持っている書籍だけでなく、他の図書館やさまざまな専門機関などから、利用者が必要とする情報を見つけ出し提供することです。

私たちは、情報があふれる社会に暮らしています。そんな中において、的確な情報を選び出し、それをを用いて責任ある判断を

し、自立した社会や生活を営むことは、今後ますます重要になってきます。それを支援するのが司書の仕事です。

司書の仕事は、本が好きというだけで出来るものではありません。人を支え応援するホスピタリティ精神を持った、「人が好き」な人が携わる仕事です。人と情報を結ぶ大切な役割を担いながら、人に喜んでいただけることを目指す皆さんが、公共図書館や学校図書館で今日も活躍しています。

図書館司書講座の2017・2018年度生は2月募集、4月開講予定です。詳しくは松本大学教務課 0263-48-7200(代)へお問い合わせください。



## レポート・論文の書き方講座を開講

10月28日に、図書館主催「レポート・論文の書き方講座(基礎編)」を実施しました。開催際の告知にもかかわらず、33名の学生に参加していただきました。今回は30分と短い時間でしたが、実際に例題を解いて答えるワークショップも交えながらの講義となりました。

参加者の半数は4年生で、講座終了後のアンケートから「文章をうまく組み立てられない」、「情報への的確なアクセスなどに苦労している」といった現状がわかりました。また、「レポートや論文の相談窓口があったら利用したい」、「1年生の時に講座を受けていたらもっと良かった」などのご意見もいただきました。

こうした声を真摯に受け止め、大学図書館の大切な役割である「学習支援サービス」の充実に努めて参りたいと思います。



初めて開講した「レポート・論文の書き方講座」

## 短大で取得した資格を活かし頑張っています

塩尻市立図書館 北林 あやの(松商短期大学部2011年度卒業)

私は松商短期大学部で図書館司書フィールドを受講し、司書資格を取得しました。現在は、塩尻市立図書館で日々職務に励んでいます。

司書として働く中で役立っているのは、「日本十進分類法」です。学んでいた当時は、これだけの分類を覚えても使うことがあるのだろうかと思っていましたが、今は利用者の方にこういった本を探しているなど聞かれた際に、頭の中でこれは何類の本だと把握して、すぐに棚へご案内することができます。

司書に関する講義は概論だけでなく、図書館情報系などパソコン操作を含む内容もあり、覚えることがたくさんありますが、ここで学んだことは司書になったとき必ず役に立ちます。ぜひ色々勉強していただきたいです。



## 図書館講演会で姜尚中氏が語る

10月16日、松本大学「梓乃森祭」50回記念事業の一環として、東京大学名誉教授・姜尚中氏を招いた図書館特別講演会を開きました。演題は、「悩む力・心の力」。姜氏は、グローバルに、そして歴史的に幅広い視点で今を、そしてこれからを語ってくださいました。

本がさまざまな豊かな世界を私たちに提供してくれるのは、今さら言うまでもありません。しかし、そこに表されているのは著者のほんの一断面であり、直にお話を伺うことで、本の裏に広がる広大で深淵な世界に

ふれ、己の視野が広がります。著者と読者をつなぐ、こうした企画の醍醐味です。

会場になった教室の280席は、事前申し込みですぐに満席となってしまう、姜氏の相変わらずの人気の高さを再認識しました。大学祭の中という性格上、学生の皆さんの参加が少なかったのは残念でしたが、本学の理念である地域貢献の一端を、図書館として担うことができました。こうした企画を是非また、という何人もの方からの声に応えられる図書館でありたいと思います。



# 着実に成果を上げる本学の教員養成

本年度、長野県を含む公立学校の教員採用試験に、松本大学の現役生、卒業生合わせて7名が小学校教諭、中学校・高等学校保健体育科教諭、養護教諭、栄養教諭で合格しました。平成25年以降長野県内外の公立学校教員採用試験に毎年複数名が合格し、現在約20名が正規教員として学校現場で活躍しています。また、採用試験合格を目指しながら講師として現場で努力を重ねている卒業生も数多く、正規教員、講師を問わずほとんどの卒業生が、校長先生をはじめ周囲の先生方から高い評価を得ており、本学教員養成の誇りになっています。

教職センター運営委員 岩間 英明



2017年4月に松本大学が教育学部学校教育学科を開設することが決まり、文部科学省に申請していた教職課程もこのたび

認定されました。ここに至るまで本学の教職課程がのこしてきた実績と、教員養成の取り組みを振り返ってみます。

は中学校・高等学校の保健体育科教員志望者が数多く進学してきており、教職課程履修学生が一気に増加しました。



教職特講演習で実践的に学ぶ

本学の教員養成は、平成17年4月に総合経営学部に高等学校(公民)の教職課程を設置したことに始まります。その後、それまで数名であった教職課程履修者が大幅に増え、本格的な教員養成が始まったのは、平成19年人間健康学部の開設からです。特にスポーツ健康学科に

本学の教員養成の特色は、教員免許法による免許取得に必要な科目開設にとどまらず、たとえば人間健康学部では関係教員の指導の下、学生が地域の学校へ体育・保健・栄養指導に出向いたり、地域の学校の体力測定を本学で実施したりしていることです。地域の「現場」を認識し、学内で「理論」を深める本学独自の課題解決型教育手法の教職版としての教学展開です。また、教員養成をしていく上で大きな壁とも言える教員採用試験に対する対策も、一部の教員による自主的な教育課程外の活動から、教育課程に組み込んだ形で10数科目の科目設置へと変容してきています。さらには、卒業生を対象とした教員採用試験対策講座を開設し、フォローアップ研修を実施するなど、卒業後もきめ細かな指導を実施しており、こうした活動は現在もさらに拡大した形で継続されています。

教職課程設置当初は『松本大学から学校の教員なんてなれっこない。』と言われたこともありましたが、着実に実績を積み上げてきた現在、本学の教員養成に期待するという声が多方面から寄せられています。今後、教育学部の開設とともに本学の教員養成は新たなステージへと向かうこととなりますが、地域に根ざす本学ならではの教員養成の原点を忘れず、一層の飛躍を目指していきたいと考えています。

## 先生方の手厚い指導に感謝

長野県高等学校 保健体育教諭 市川 由季(スポーツ健康学科2011年度卒業)

駒ヶ根工業高校で保健体育の教諭をしています。大学の教職科目で、高校授業案の作成や模擬授業、実践的な実技の指導方法などを学び、それが私の教科指導の基礎となっています。特にレクリエーションの授業等には、高校のHRを運営する上で必要な材料がたくさん詰まっていた。地域でさまざまな体験を重ねて「人間力」を身につけたことが、いま生徒と関わる中で大きく活かされているのではないかと感じます。

松本大学教員養成の一番の魅力は、先生方の手厚い指導です。松本大学は、教員と学生の距離が近いので、些細な悩み事でも親身になって答えてくれます。教員を志す上で、悩みや不安は必ず出てくると思いますが、近くにそのような先生方がいる大学の環境はとても魅力的で心強いです。また、教員採用試験対策も充実しており、一般教養、専門分野はもちろんですが、小論文や面接指導まで細部にわたりご指導いただきました。このような大学側の熱心なサポートがあったからこそ教員採用試験の合格に至ったと感じています。



# 学生の学びを支援～正課外講座の成果表れる～

松本大学では、公務員対策や、グローバル化に対応し、正課外に独自の講座を設置して学生のキャリアアップをサポートしており、その成果が表れてきています。

松本大学副学長 等々力 賢治  
教務課 上條 直哉

## 公務員試験講座を設置 松本市の行政職合格者も

本学では2014(平成26)年度より、長野県や松本市、長野市などの職員採用試験合格者の輩出を念頭に、大学、短大ともに正課外に「公務員試験対策総合講座」を設置しました。公務員等各種資格試験に高い実績を誇る「東京リーガルマインド」(LEC)の全面的な協力を得て独自のカリキュラムを組んでおり、5限目(16時50分～18時20分)という時間設定の中ですが、これまで、設置初年度は延べ94

名、2年目は155(複数講座の受講者がいるため実数は150)名、そして3年目の今年度は188(同じく168)名と、着実に受講者を増やしてきています。

特に大学の講座は、①1年次から4年次まで配置され、内容が積み上げ方式になっていること、②1、2年次には企業志望者にも役立つよう、一般教養中心にSPI対策も含んだ構成になっていること、③3年次からは、一般教養中心の講座と並行して、一般行政

職志望者向けに総合経営学部で開設している公務員関連科目を履修し効果的に学習できる「専門講座」を設けていることなどが大きな特徴であり、まさに「松本大学方式」と呼んでもよいものになっています。

この講座の受講者でもあるスポーツ健康学科4年の中澤久美さんが、今年度の松本市職員採用試験に合格しました。分類は行政C(健康運動指導士)であり、他の行政職A、Bと同じように、法律や経済分野も出題され、競争倍率5倍という難関でした。中澤さんは、健康運動指導士資格の取得を目指しながら週一回開講される同講座を3年次から受講し、陸上競技部の活動と両立を図って勉学に励んできました。その意味で、「公務員講座を設置した狙いを見事に達成してくれた」ということとなります。

好景気ということで、学生諸君の目は一般企業に向きがちですが、中澤さんに続く一般行政職合格者を今後さらに輩出すべく、LECと連携しよりいっそうの充実に向けて取り組んでいきます。



正課外で開いている公務員講座は受講者数が増加

## 語学力養成プログラムでTOEIC800点以上も

本学では、大学・短大の入学生全員がTOEICを受験し、初年次からの語学教育の成果を測定するとともに、TOEIC対策として、正課の授業で入門・初級・中級・実践とレベルに応じた段階的な学修指導を行っています。TOEICは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストで、多くの企業、学校、団体においてさまざまな目的で活用されています。

昨年度、さらにレベルアップしたい学生を対象に、正課外で「TOEIC対策講座」を

開講しました。講座は500点を目指すクラスと700点以上を目指す2つのクラスを展開し、今年度は計30名が受講しています。夏休み期間には、「ネイティブチャレンジ」と称して、ネイティブスピーカーと集中的に会話のトレーニングを行いました。単なる試験対策だけでなく、英語が使えることを実感できるのが、本学のTOEIC講座の特徴

です。今年の試験では、700点以上3名(800点以上含む)、500点～700点20名と、着実にその成果が表れています。



「ネイティブチャレンジ」で会話のトレーニング

## 身についた語学力を活かす研修プログラム～豪・欧米へ～

8月16日から30日まで15日間の日程で、本学学生13名が、姉妹校である湘北短期大学の学生46名とともにオーストラリア国立ニューカッスル大学へ、また、8月30日から9月8日までの10日間の日程で、4名が、アメリカノートルダム大学へ語学研修に訪れました。

この研修は完全オーダーメイドプログラムで、英語のみで行われる授業と各国の文化に触れる体験型アクティビティが豊富に組み込まれています。

日本で英語力の基礎を固めた学生が、留学によってよりいっそうグローバル化に対する意識を向上させるなど、英語学修に取り組む機会になっています。

後期には、メルビル大学(アメリカ)、トンソンリバース大学(カナダ)、リージェンツ大学(イギリス)、フライブルク大学(ドイツ)への海外研修も予定されています。ローカル(地域)とグローバル(国際)の両面で「地域に貢献できる人材」の育成に、今後もいっそう邁進します。



ニューカッスル大学での研修



ノートルダム大学での研修

# 「防災」テーマに進める人づくり・地域づくり

COC戦略会議 議長 木村 晴壽

文部科学省からの補助金にもとづいて本学が進める大学COC事業では、人づくり・地域づくりの両面で「防災」が大きなテーマとなっています。

「防災の人づくり」で大きな役割を果たしているのが、日本防災士機構と連携して実施する「防災士養成研修講座」です。本年度も10月8、9日の両日にわたり本学を会場に開催し、過去2年間の講座と合わせこれまでに学生を含め227名が防災士の資格を取得しました。

防災士の資格は、災害と防災および災害救助について幅広い知識を持ち、機構が実施する認定試験に合格した者に与えられます。「助けられる人から助ける人へ」をスローガンに、災害発生時はもとより、普段から地域の防災訓練等を中心となって企画・実施

する人材であることの証明でもあります。自治体によっては、補助金を給付して資格の取得を奨励するところもあるほど、全国的に浸透しつつある資格です。

激甚災害の発生時には、数多くの若者が集まっている大学のような機関は、様々な分野で大きな力になり得るので、本学では学生にこの資格の取得を奨励するだけでなく、29年度から正規のカリキュラムに資格取得のための科目を導入する予定です。

「防災の地域づくり」では、本学が位置する松本市の新村地区との連携を強め、地区の防災訓練を共同で実施するなど、いざと

する人材であることの証明でもあります。自治体によっては、補助金を給付して資格の取得を奨励するところもあるほど、全国的に浸透しつつある資格です。



今年度の「防災士養成研修講座」

いうときに大学自体がどのように動くべきかを詳細に検証している最中です。特に、消防団員など新村地区の防災関係者との災害図上演習では、地区の防災体制と本学の動きの両面で、具体的な課題が浮き彫りになり、大きな効果を上げています。

## 学生がコミュニティFMで防災番組を制作



非常食について説明する学生たち

防災や災害に関わって活動している本学の学生たちが、コミュニティFMの「エフエムまつもと」で毎週金曜日の午前9時から30分間、独自の番組を担当しています。この活動もまた、大学COC事業の一環です。初回は10月7日に放送され、やや緊張した声ではありましたが、学生ならではの防災への取り組みをわかりやすく伝えることができました。

30分間の放送は、「地域防災」をテーマとしたコーナーと、本学が過去5年以上にわたって続けてきた、宮城県石巻市での被災地支援活動を紹介するコーナーとで構成されています。取り上げる話題によってはゲストを招いて、より突っ込んだトークができるようにし、工夫を凝らしながら番組を作り上げています。局の担当者からのアドバイスを受けながらも、基本的には学生たちによる番組です。皆さん、よろしく応援して下さい。なによりもまず、聴いて下さい。79.1MHzです。

## 大学と地域のパイプ役に



松本大学地域総合研究センター特別調査研究員  
新村地区担当 一色 美月  
(観光ホスピタリティ学科2015年度卒業)

松本市地域づくりインターンとして4月に新村地区地域づくりセンターに所属してから、大学と地区のパイプ役として日々奔走しています。

「防災の地域づくり」の重要性を強く感じたことの一つに、6月に大学と合同で行った「新村地区総合防災訓練」があります。「リアル」を重視し、「地震が休日・朝方に起きた時、部活動などで大学に居合わせた学生が、住民の集まる町会一時集合場所へ救援が必要が確認に向かう」という情報伝達訓練を行いました。災害時に携帯電話

等が使用できない想定で無線機を持ち、公民館から地図を見て出発しました。結果、土地勘の無い人が救援に向かうことは難しいと感じました。新村地区は、細く入り組んでいる道が多い上に、目印となる建物も少ないので迷ってしまったようです。学生からは「コンビニのようにパッと見てなんの建物か分かる地図がほしい」との意見が出ました。他地区の人でも分かりやすい地図が必要であることにも気付かされました。

今後もさまざまな活動を通じて、地区と大学を繋ぐ第三者として顔の見える関係を築き、地域づくりに関わっていきたいと思います。



新村地区自主防災訓練での炊き出しの様子

## まだまだ成長の途中? 10回目を迎えた 「一日限りのレストラン」

健康栄養学科 専任講師 成瀬 祐子

健康栄養学科の学生有志による「一日限りのレストラン」を9月24日に本学で開催し、今回で10回目を迎えることができました。5回目までは茅野市のレストラン「エスポワール」の藤木シェフや、篠ノ井総合病院の小山シェフとのコラボレーションで、学内にとどまらず松本駅での駅中マルシェなど様々なことにチャレンジしてきました。6回目

以降は学生たちの力だけでの開催となり、毎回料理のテーマを決めて実施してきました。お越しいただいた地域の方々へ心地よく食事を楽しんでいただくために、驚きや新しい発見があるような料理を考案し、提供しました。継続して参加する学生も多く、先輩から後輩へと思いやノウハウを伝授する流れができてきたように感じています。



テーマは「ちょこっと信州」

今年は「ちょこっと信州」というテーマで、おやきや五平餅をフランス料理風にアレンジし、信州の特産品も沢山使用したメニューに上げることができました。当日お越しいただいたお客様からは、「料理やサービスから学生たちの思いや工夫が伝わった」等の感想が寄せられ、満足していただけただけです。今はまだホッとしているところですが、すでに来年に向けて思いを巡らせている学生たちもおり、どのようなアイデアが飛び出すのか、私たち教員も楽しみにしています。



健康栄養学科1~4年生47名が参加しました

## 2016年度「地域産品デザイン講座」開催 商品デザインを実践し効果を実感

観光ホスピタリティ学科 教授 山根 宏文

2014年度に始まった大学COC事業による「地域産品デザイン講座」を、今年度も8月4日~9月29日に全5回の日程で開催しました。

2014年度は、地域産品をデザインするために大切なこととして「商品の魅力」、「マーケティング」、「地域ブランド」について講義しました。2015年度は「地域商品の魅力を伝えるための戦略と戦術」の講義と、「地域商品デザイン実践のためのワークショップ」を開催し、参加者と討論を重ねてきました。

今年度はその成果発表として、初回からの参加者である地元新村の「くれき野生産

組合」のお米のパッケージをデザインし、10月から販売を開始しました。パッケージのデザインを魅力あるものにするによって、1袋も販売されていなかった3合入りのお米が1カ月に100袋以上も売れ、生産組合の方々には驚かれていました。

手に取りたくなるパッケージデザインは重要ですが、ただ美しいデザインにするのではなく、マーケティングを行い、商品の魅力を理解し、それを的確に伝えられるデザインをすることが大切です。それにより販売増が可能であることを、実践を通して参加者に学んでいただけたと思います。



パッケージデザイン後のお米(上)とデザイン前のお米(下)

## 吹奏楽界のプロが中・高生を指導 恒例のミニコンサート&公開クリニック開催

総務課長 赤羽 研太

すっかり恒例となった吹奏楽のミニコンサート&公開クリニックを、今年も吹奏楽界の第一線で活躍する東京佼成ウィンドオーケストラの演奏家7名(フルート、クラリネット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、ユーフォニアム、オーボエ)の協力を得て11月26日に開催しました。

今年は初めての中学生の参加を含め、6

校56名と例年より少なかったこともあり、その分参加した生徒の皆さんには時間的

にも満足に行く指導を受けていただけたのではないのでしょうか。ミニコンサートでは、変則的な編成にもかかわらず見事に調和のとれた「モルダウ」が披露されました。



美しい音色を響かせたミニコンサート

この公開クリニックで得たものが、アンサンプルコンテストの結果につながっていくことはもちろん、今後の活動の一助となることを願っています。

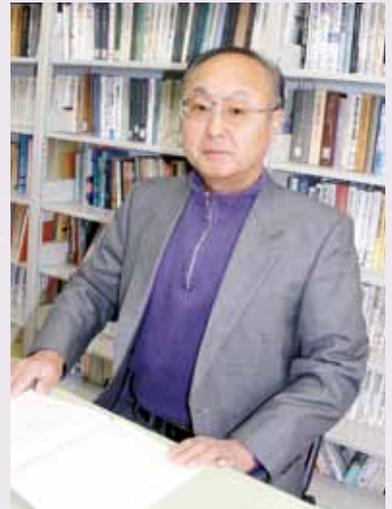
## “ミラクルJAPAN”は、何故？

焼け跡からスタートした戦後の日本が、わずか10年後には高度経済成長を開始し、降伏から20年ちょっとで世界第2位のGNP(現在のGDP)を達成したことは、“ミラクルJAPAN”として世界的な注目を集めました。でも、これは2回目の“ミラクル”でした。明治の時代に工業化を成し遂げた日本を、当時の世界が“ミラクルJAPAN”と受け止めたのが最初です。きのうまでマゲを結って着物を着ていた国が工業化を始め、“眠れる獅子”であったはずの清国を打ち負かし、その10年後にはヨーロッパの一角ともいえるロシアと戦争を始め、そのまた10年後には第一次世界大戦に参戦し…。なぜこれが“ミラクル”か、それは、植民地にもならず、この時代にまがりなりにも資本主義を作り上げたのは欧米以外では日本だけだったからです。

戦後のどん底から這い上がるため必死に働き、ひと息ついた日本人が周りを見渡したとき、そこには、子どもたちが餓死する世界がありました。今でも状況はあまり変わりません。どうしたら飢えない国、豊かな国になれるのか、その答えを世界の人々は明治日本の工業化に求めたのです。日本の経験に学べば、経済を発展させ貧困から抜け出せるはずだと考えて、日本の工業化の歴史を解明することに熱中しました。

私は、問題を解く鍵は信用制度にある、と考えています。流通・金融と言ってもいいかもしれません。生糸貿易から研究を始めたのはそ

のためです。幕末から明治中頃までの約30年間、植民地か独立国かの岐路に立っていた時期、日本商人も外国商社も輸出入の代金は、洋銀(メキシコドル)と呼ばれた特大の銀貨で支払いをしていました。日本が経済的独立を守ることができたのは、この洋銀をうまく融通することで、日本の商人たちが、巨大な経済力を持つ外国商社と渡り合ったからです。



洋銀をうまく使った日本最大の金融業者は、信州人でした。彼は、洋銀相場の儲けを信州の生糸流通に活用しました。この事実なくして、信州が生糸王国になることはなかったはずで、こうして私の研究は、地域経済の歴史も守備範囲とするようになっていきます。

いま振り返ってみると私の研究は、日本の経済的独立→貿易金融→生糸流通→洋銀相場→地域経済→地方財政史という変遷をたどったようです。

早稲田大学大学院商学研究科博士課程満期退学。商学修士。【専門分野】日本経済史／地方行政史【研究課題】幕末～明治期の貿易金融／地方商工会議所の歴史／地域活性化と大学教育

## 》 商店街の活性化に向けて～旅のしおりプロジェクト～

観光ホスピタリティ学科 准教授 畑井 治文

キャンパスを飛び出し  
地域で学ぶ!

out campus study

## アウトキャンパス・スタディ

観光ホスピタリティ学科の白戸・畑井・向井ゼミによる「松本市の上土商店街活性化の取り組み」の一環で、現在、畑井ゼミでは上土商店街周辺の店舗・施設を紹介する「旅のしおりプロジェクト」を進めています。松本



完成した冊子を手渡す学生

に来訪される観光客の方々だけでなく、地域住民にとっても有用な情報発信をするために、学生自らが直接店舗・施設に赴き、店主等へインタビューを重ね、そこから得られた情報を学生目線でまとめていくという活動

です。お店の沿革、お店のこだわり、店主のオン・オフ、上土に対する思いなど、既存の旅行情報誌とは一線を画す内容を目指しています。

今回、その第一弾として、上土商店街のショーウィンドーを巡る「まちなかギャラリー」の企画(向井ゼミ担当)に連動する形で、ギャラリーにご協力頂いた店舗・施設を紹介する「旅のしお

り」(まちなかギャラリー編)を制作しました。冊子は、11月19、20日に開催された「第3回松本城下町恵比寿講しょうぶく祭」の会場で無料配布され、ギャラリーにご協力頂いた店舗・施設でも手にすることができます。



「まちなかギャラリー」を楽しむためのツールとして活用して頂くのはもちろんのこと、地域の内外の方々为上土商店街に興味を持って頂くきっかけになることを期待しています。今後も“地域デザイン”を学ぶゼミ活動のひとつとして、「旅のしおりプロジェクト」を大切に育てていきたいと、ゼミの学生達は熱く語っています。

# 学舎を彩る 半世紀の節目としての「梓乃森祭」

全学学生委員長 矢崎 久

暑かった季節が過ぎ秋麗を感じさせる10月15、16日の両日、松本大学ならびに松本大学松商短期大学の第50回「梓乃森祭」が盛大に開催されました。創祭から今年度で半世紀を重ねることができましたのも、ひとえに地域の皆様、ご父兄の皆様のご理解とご懇情の賜であるものと思っております。ありがとうございました。

さて、創祭時の松商短期大学のみから、松本大学開学、総合経営学部、人間健康学部の開設とともに歴史を重ね、目前に迫った教

育学部開設など、地域から求められながらも存在しなかった学修環境の具現化、有為な卒業生の輩出を目標に、教職員一丸となり今日に至っております。

私が奉職した十余年前の「梓乃森祭」はどうだったのかを思い起こしてみました。学友会（学祭局）の学生はもとより、学生委員の教職員が総出

でイベントを警備し、期間中の夜警もまた

学生と共におこなうことが常でした。しかし年々、学祭局の経験と力が育まれ、学生による、学生のための学園祭「梓乃森祭」がおこなわれるようになってきました。



ラート競技部がパフォーマンス

これらの成果物が、半世紀の節目にあたる今年度の「梓乃森祭」でありました。50回を迎えたことに合わせて50の企画が用意され、学舎は大変な盛り上がりを見せていました。このような栄えあるひととき（ステージ）をすてきな学生とともに過ごせたこと、そのすべてが私の財産であります。ありがとうございました。学生の皆さん、ありがとうございます。地域の皆様。



ファッションショーを企画



模擬店の様子

## 第7回(平成28年度)学長賞受賞者・団体

学術・芸術・社会・体育・文化活動において他の模範となる成績をおさめ、または社会に貢献した学生、団体を表彰する『学長賞』の授賞式が、大学祭「第50回梓乃森祭」の中で行われました。受賞者は以下のとおりです（ともに課外活動）。

- 浦野 泰希(観光ホスピタリティ学科4年) …………… 日本学生陸上競技対校選手権大会2年連続出場
- 高山 泰歩(松商短期大学部2年) …………… 第51回全国私立短期大学体育大会 女子バドミントンシングルス第3位
- 大島 暢(スポーツ健康学科4年) …………… 第12回全日本学生ラート競技選手権大会 団体・個人総合優勝
- 月岡 美穂(スポーツ健康学科4年) …………… 第12回全日本学生ラート競技選手権大会 個人総合優勝(2期連続)・世界大会出場
- 菊池 将司・柳沢 遥也(松商短期大学部2年) …………… 第50回全国私立短期大学体育大会 男子卓球ダブルス第3位
- 杉本 幸祐(スポーツ健康学科4年) …………… ノースアメリカンカップディアパルー大会フリースタイルモーグル第2位・2018平昌オリンピック強化指定選手

## 入山辺地区通学合宿を学生が支援

教職センター 教授 征矢野 達彦

松本市入山辺地区の小学生25名が、美ヶ原少年自然の家で合宿をしながら小学校へ通う「入山辺通学合宿」が9月19日から22日まで3泊4日で行われ、本学の教員を目指す学生ら6名もボランティアとして参加しました。「交流・体験」、「夕食作り」「学習の時間」「お風呂」「1日の反省」等のそれぞれの時間を、5班に分かれて担当し、その班を中心に、活動の支援を行い、生活指導にも携わりました。小学生は朝食を食べると、片付けもそこそこに小学校へと向かい、大学生も授業へと出発します。帰ってくると計画の通り、活動が始まります。

初日は、カエデの木の箸を作る体験教室があり、地元の木工職人から教わりながら合宿中に使うマイ箸を作りました。星空観察・囲碁将棋教室・キャンプファイアなども行われましたが、終了後の感想で一番多かったのは、「大学生と宿題をしったり遊べたことが、楽しかった。」

でした。大学生からは「昨年より子ども達としっかり交流することができて、貴重な体験ができた」、「子ども達が主体となって活動



学生がボランティアで参加した通学合宿

に取り組み、学生がアドバイスするという流れが良かった」等の感想も出て、学びの多い合宿となりました。

# 第7回「松本大学地域貢献大賞」決まる

地域に根ざし、地域で活躍できる人材の育成を旨とする本学では、学生のさまざまな地域活動を多くの方に知っていただくとともに、その活動を支援・推進する目的で「地域貢献大賞」を設けています。今年も大学祭「梓乃森祭」でプレゼンテーションが行われ、大賞をはじめ各賞が決まりました。

## 地域貢献大賞（学長特別賞）

### イタリアンレストランで提供するヘルシーランチのメニュー開発

地域健康支援ステーション ピッツェリア ヘルシーメニュー開発チーム

松本大学地域健康支援ステーションは、株式会社レオパレス21の学校法人営業部からお声がけをいただき、株式会社あつぷるアイビーとのコラボレーションによる、健康に配慮したメニューの商品化に向けた産学連携の取り組みを実施しました。

この取り組みには健康栄養学科1～3年生の有志18人が参加しました。商品開発について説明を受けた学生は、個人またはグループで工夫をこらしたアイデアでヘルシーメニュー12品を提案し、“あつぷるアイビー”の商品化担当の方々から実際に店舗で販売可能な内容になるよう具体的な評価やアドバイスをいただき、何度も試作研究を重ねながら最終的に7品が商品化されることになりました。

外食店で提供するメニューを考案するには、健康に配慮した美味しい料理であることはもちろん、お客様に喜んでいただけるよ

う季節感や見栄えや香りなどへの配慮も求められることなどを教えていただきました。また学生はこの活動を通して、仲間と協力してひとつの作品を作り上げる、大学で学んでいることを実際の地域貢献として応用するという貴重な体験をすることができました。

なお、ヘルシーメニューの基準は長野県が推進する信州ACEプロジェクトの一環で健康に配慮したメニュー提供などを行う「信州食育発信3つの星レストラン」の規定に基づくものとしました。学生の考えたメニューはこれらの条件も満たすことができたため県に申請し、このメニューを販売する店舗は「信州食育発信3つの星レストラン」として登録されることとなりました。

学生の提案に一つ一つ具体的にご指導及びご助言いただきながら最大限にアイデア



完成したメニューを披露する学生たち

を生かした商品作りを支援してくださった株式会社レオパレス21および、株式会社あつぷるアイビーの関係者の皆様にご場をお借りして感謝を申し上げます。

これらの商品は、11月から、イタリアンレストラン「ピッツェリア」の長野県内の6店舗ほか、富山県・新潟県の店舗でも販売されていますので、どうぞお召し上がりください。

(地域健康支援ステーション 飯澤 裕美)

## エプソンユニオン賞

### 松本大学および要配慮者における備蓄食料について

健康栄養学科 藤岡研究室



備蓄食料について説明する学生

藤岡研究室は、学内で唯一7年連続で地域貢献大賞にエントリーしており、今年度は初めて2演題発表しました。3年生の課題は、昨年度の「みえIBD（炎症性腸疾患）昼食会」にて患者様より頂いた「傷病者は大災害に備えてどのような心構えをしたらよいのかを学びたい」という要望がきっかけでした。

先行研究によれば、自治体による災害時要配慮者に対する災害時の備えについての指導や助言は、特定疾患の場合16.9%と実施率が低く、前述した患者様の不安は大いに頷けました。そこで、今年度は病態に適応した易消化食をパック調理（電気・ガス・水道等がなくても作れる調理法）で実演し、3日分の備蓄食料を揃えて展示しました。現在は、患者様お一人おひとりのオーダーメイド備蓄チェックリストを作成するために準備を進めています。

(健康栄養学科 専任講師 藤岡 由美子)

## ものぐさ太郎賞

### ペットボトルホッケー

～地域をつなぐ1つのパス～

地域づくり考房「ゆめ」 松本大学キッズホッケー

今年4月に本学学生5名が立ち上げた松本大学キッズホッケーは、6月から新村児童センターと三郷わいわいランドを活動拠点とし、学校帰りの小学生を対象にペットボトルホッケー教室を開いています。ペットボトルホッケーとは、スティックの代わりに空のペットボトル、パックの代わりにビーチボールを用いてプレーするホッケーです。10月からプラスチック製のスティックをレンタルし、新村児童セン



ペットボトルホッケー教室を開講

ターでユニホック教室を始めましたが、ペットボトルホッケー教室の人気は全く衰えないそうです。ホッケーの普及・振興を願う松本大学キッズホッケーのビジョンは、教室を通してスポーツパーソンシップと思いやりの心を培った、長野県代表ホッケー選手を輩出することです。

(スポーツ健康学科 准教授 新井 喜代加)

## 同窓会長賞

### 世界に羽ばたけ!「金の卵プロジェクト」 ～長野県ソフトボールの底辺拡大・レベルアップに向けて～

松本大学女子ソフトボール部

女子ソフトボール部は創部以来、県内の小学生から高校生までのジュニア層のソフトボール指導を行ってきました。特に2011



子ども達に指導する部員たち

年からは各チームの活動場所へ出張指導の形式をとってきました。これは一つの会場に多くのチームを集めて指導する従来型のソフトボール教室とは異なり、出かけていく手間と時間はかかるものの、それぞれのチームや選手に合わせたきめ細かい指導ができるという決定的な違いがあります。残念ながら全国的に見て高くない長野県のソフトボールレベルを私たちの活動によって少しでも向上、普及させることができれば、そしてさらには、全日本に選ばれるような選手を輩出することに繋がればと夢は広がっています。そんな想いが今回の同窓会長賞受賞として認められたことを、部員一同素直に喜びたいです。ありがとうございました。

(女子ソフトボール部部長兼監督 岩間 英明)

## 後援会長賞

### 介護食の開発

～長野県の郷土料理をおいしく味わう～

健康栄養学科 藤岡研究室

長野県の平均寿命は平成22年に男女とも全国1位になりましたが、平成25年の健康寿命(日常生活に制限のない期間の平均)では男性18位、女性16位と、男女とも1位の山梨県から約1歳の差がありました。先行研究によれば、咀嚼能力が高いと健康寿命も長い傾向にあり、摂食困難に対する介護食の開発により健康寿命の延伸に

貢献したいと考えました。そこで、介護食を利用される高齢者は、馴れ親しんだ手作り感の伝わる料理を望まれていることを知り、県選択無形民俗文化財(味の文化財)に登録されているおやきや御幣餅を、郷土料理の介護食にしま



介護食のおやきや御幣餅を紹介

した。おやきは市内の福祉施設の利用者様とスタッフにご試食頂き好評を得ました。今後は食品会社での製造・販売により、在宅療養患者の宅配食として利用していただくことを目指しています。

(健康栄養学科 専任講師 藤岡 由美子)

## 学生委員長賞

### 自転車を活用した国際観光の事例研究

観光ホスピタリティ学科 益山ゼミ



自転車観光のフィールドワークを実施

本研究は、今夏9月5日に行われたG7軽井沢交通大臣会合開催記念町民会議「外国人客おもてなし研究シンポジウム」にて英語で発表し、大使館関係者から賛辞を頂いたものです。益山ゼミでは、かつて善光寺の精進落しとして賑わいを見せていた千曲市の戸倉上山田温泉にて自転車観光のフィールドワークを行い、ガイド付きの自転車ツアーの可能性について分析しました。日本と海外との文化交流の懸け橋ともなるガイドの役割や、自転車に優しい街づくりについての提言をしました。発表の際、松本市においても今後展開していくことが望まれる、というご意見もいただきました。現在、軽井沢町での外国人旅行者向けの自転車マナーガイドブックを制作しています。

(観光ホスピタリティ学科 教授 益山 代利子)

## 大学祭実行委員会賞

### 子ども達に馬耕を通して伝える歴史と経験 そしてこれからも受け継いでいく馬耕体験プロジェクト

スポーツ健康学科 中島弘毅ゼミ

中島ゼミでは毎年「馬耕体験プロジェクト～子どもの笑顔と成長を創り出す産業技術史と自然との触れ合い～」を実施しています。本イベントは馬耕体験のみならず、乗馬、馬へのえさやりなど、さまざまな体験の場を子ども達に提供しています。今年も会場には、た

くさんの笑顔と一生懸命な姿が溢れていました。歴史に思いを馳せ、家族で楽しいひと時を過ごしていただけたのではないかと思います。イベント実施にあたり、お世話になりました地域の方々を始めとする関係者の皆様に感謝を申し上げます。



子ども達が馬耕を体験したプロジェクト

今後子ども達にとって楽しくためになる場を提供していきたいと思っています。是非一度、様子を見に来ていただければと思います。

(スポーツ健康学科 教授 中島 弘毅)

## 〈地域貢献大賞審査員〉

- エプソン労働組合執行委員 石川 直仁様
- エプソン労働組合 中島 和彦様

- 新村公民館長 関 成任様
- 松本大学同窓会長 小島 恵子様
- 松本大学後援会長 伊藤 義久様

- 松本大学学長 住吉 廣行
- 松本大学全学学生委員長 矢崎 久
- 松本大学学友会前学祭局長 曾根原理華



# 話と和と輪、想像と創造の空間 地域づくり考房『ゆめ』



地域づくり考房『ゆめ』は、学生が大学での学びを活かして地域と連携し、課題解決に向けて主体的に活動することを支援しています。主に4つの取り組み①学生の関心、問題意識から生まれた企画実践②地域

との協働でプロジェクトを企画実践③地域で企画される活動への参加・支援④地域づくり考房『ゆめ』の自主事業)があり、学生たちが積極的に地域づくりにかかっています。最近の取り組みを紹介します。

## 「ええじゃん栄村」プロジェクト 食と農林漁業大学生アワードに出場

2011年の長野県北部地震で被災した下水内郡栄村を応援するために活動している「ええじゃん栄村」プロジェクトが、農林水産省の開催する「食と農林漁業大学生アワード2016」に出場しました。このコンテストは「食」と「農林漁業」を通じた「地域」の再生に向けて、大学生が互いの研鑽と連携を強化することにより、若者の取り組みの重要性について国民的理解を深めることを目的に実施されているものです。今年是全国36団体の応募の中から書類選考で選ばれた

10団体が出場しました。

「ええじゃん栄村」は、今年での取り組みおよび昨年より手がけている山菜イタドリレシピ集の作成が認められての選出でした。出場した団体の取り組みは農山村へのボランティア派遣、生産者と消費者をつなぐWEBの運営など多岐にわたり、プレゼンも趣向を凝らし、白熱したものでした。そのような中、発表順が最後だった「ええじゃん栄村」の学生3名も、これまでの活動の経緯やイタドリレシピ集作成の苦労や活用、今後の展望などを堂々と発表することができました。

残念ながら農林水産大臣賞の受賞とは



「ええじゃん栄村」の学生が発表

なりませんでしたが、リハーサルや他校との交流会等充実したスケジュールが組まれた2日間で、参加した学生にとっては大変貴重な経験となったようです。今回の経験で得たものが、学生たちの今後の活動に生かされることを期待しています。

(健康栄養学科 専任講師 成瀬 祐子)

## プロジェクトの充実へ 仲間と向き合う 『ゆめ』合宿を開催しました

9月5、6日の1泊2日で、国立高遠少年自然の家を会場に夏季『ゆめ』合宿を行いました。これは昨年度に始まった中間合宿で、『ゆめ』での活動をより良くするため、学生同士の交流やプロジェクト推進能力を高めるメニューで実施しています。

今年は学生グループのチーム作りを主眼に、1日目に森の中で外部指導者を招いたチームビルディング体験学習を取り入れました。『ゆめ』のプロジェクトは学部や学年を越えて、最初は互いをよく知らない学生同士で始まります。プログラムは現実のチームで目の前の諸課題を解決していくもので、半日かけて複数の課題に挑戦しました。結果はもちろんその過程が非常に重要で、目の前にいる仲間と向き合い、そ



の中における自分の姿、仲間たちの得意分野や特色を発見し、助け合い協力するチームとして



グループで課題に取り組む

の一体感などを体験し、気持ちを分かち合いました。野外の解放感や自然の心地よさ

もあり、多くの学生がリラックスして課題に取り組めたようです。相手の体に触れたり、自分の体を預けたりする活動では、スキップが信頼やコミュニケーションを生みました。

人と向き合い、社会課題と向き合っていくプロジェクトを進めるにあたり、ある種のエネルギーが生まれたように思います。

(観光ホスピタリティ学科 准教授 中澤 朋代)

## 「明るい社会に貢献する奨学生」として表彰

公益財団法人信濃育英会「第22回明るい社会に貢献する奨学制度」の奨学金授与式が10月1日に杉並区の本部で行われ、個人の部で本学の堀江穂乃花さん(総合経営学科3年)が表彰を受けました。受賞理由として「松本市『すずき川花火大会』の実行委員会に参加し、大学生で構成するプロジェクトのリーダーとして活動。ポスターの刷新、大会イベント運営、キャラクター制作など集客力をあげる活動を行った。また松本BBS会の会員として少年院で行われるスポーツ交流やお菓子作りなどを通じ、

青少年更生の手伝いをしてい」と紹介されました。堀江さんのこれからの活躍が期待されます。

この制度は、ボランティアなどあらゆる活動を通じて明るい社会を築くために貢献している学生や団体が、奨学生として表彰されるもので、今年度は個人6名と7団体が表彰されました。

(地域づくり考房『ゆめ』課長 臼井 健司)



表彰された堀江さん

# 地域の健康づくりを支援する 地域健康支援ステーション



地域健康支援ステーションでは、地域からの依頼を受けて健康づくりの支援やメニュー提案など実践的な活動を行っています。最近の活動をご紹介します。

管理栄養士スタッフ 飯澤 裕美  
健康運動指導士スタッフ 赤津 恵子

## 健康弁当を商品化しました

11月10、11日に松本市で開催された世界健康首都会議で、本学学生と㈱王滝のコラボレーションにより商品化した健康弁当「カラフル健康ランチBOX」が販売されました。健康弁当提案の企画は今年で4回目となり、活動に参加した健康栄養学科1年生の3人が「体にやさしいお弁当」をテーマにメニューを考案し、㈱王滝の管理栄養士の木村様のご指導をいただき、味わい、見た目などバランスを見ながらお弁当に適した料理を厳選していきました。そして長野県で推進している信州ACEプロジェクト「健康づくり応援弁当」の6つの基準を満たした健康弁当が完成しました。

参加した学生からは「商品化の過程を体験し、作り手の苦勞に思いを寄せコンビニ弁当を見る目も変わりました」などの声が聞かれました。このお弁当は現在㈱王滝ケータリングサービスにて予約販売を行っております。



学生が健康弁当を考案

## 松本山雅スタめしの商品化

10月23日に、J2・松本山雅FCとのコラボレーションによる活動で学生が提案したスタめしがホームスタジアムアルウィンで販売されました。

今回で7回目となったこの活動には1～3年生の11人が参加し、現地視察や事前の講習会での学びを活かしながらそれぞれ工夫を凝らし、17メニューを提案しました。その中から最終的に3品が選ばれ、採用さ

れた学生たちは出店業者からアドバイスを受けながら何度も試作や検討を重ね、試合を観戦する方に喜ばれるようなスタめしが完成しました。



完成したメニューを発表

新聞や、試合当日アルウィンで配布されるマッチデープログラムでも紹介され、多くの方にお買い求めいただきました。学生も販売のお手伝いをしながら、購入されるお客様の様子を肌で感じ、「これを目当てに買いに来たよ」とのうれしい言葉をいただき、応援するファンやサポーターをより元気づける“食”の力を認識できたことと思われま

## 企業で運動教室を実施

昭和電工セラミックス㈱塩尻工場から運動による社員の健康づくりをしたいとの依頼を受け、6月から11月の間、4回にわたり運動教室を実施しました。昼休みの時間を利用し、「正しい姿勢で歩こう」「ロコモティブシンドローム」「中高年に多い腰痛」「肩こり・冷え改善」をテーマに実施しました。昼休みの30分と時間が限られていること、運動教室の会場がそれぞれの職場から離れていること等で毎回参加者は20名程度でし



企業の社員たちが熱心に運動

たが、熱心に受講していただきました。

初めにその運動の有効性をお話してから、実際に運動を体験してもらいました。例えば、腰痛予防では、腰椎の周りに天然のコルセットをつくるための筋トレと、腰への負担を軽くするために必要な太腿うしろの筋肉の柔軟性を保つ運動等を実践しました。参加者からは、「ストレッチで筋肉がほぐれ、楽になることを実感できた」「内容が詰まっていてあっという間に過ぎてしまった」「来年も時間を拡大してやってほしい」などのご感想をいただきました。

## 民生児童委員の方に速歩を指導

塩尻市から、民生児童委員協議会総会の分科会でインターバル速歩の方法を教えてくださいと依頼され、10月27日、体力をアップさせるための歩き方を指導しました。分科会の参加者30名ほどを対象に、ウォーキングに時々早歩きを入れることがなぜ体力アップにつながるのかをスライドで説明し、その後、参加者一人一人の自分に適した歩く速度と心拍数を机上で計算してから、廊下を利用して二人一組となり実際に歩いてみました。



インターバル速歩を指導

自分で「ややきつい」と思う速度で歩いてもらい、早歩きした距離と心拍数を記録します。早歩き後の心拍数と、最初に計算した自分に適した心拍数の理論値を比べ、速歩をする際の参考にしていただきました。終了後、参加者からは「なぜ早歩きが体力・筋力アップにいいのか理解できた」「正しい姿勢で歩くようにしたい」「毎日の散歩の中に速歩を取り入れたい」などのご感想をいただきました。

皆さまのお近くで、学生や専門スタッフ(管理栄養士・健康運動指導士)が  
お手伝いできることがありましたら、是非お声をかけてください。

## 今年も「フラ・イズ・アロハ」を開催しました

観光ホスピタリティ学科山根ゼミでは、松本大学東日本大震災災害支援プロジェクトの石巻市支援活動資金の捻出のため、2012年度よりフラとハワイアンミュージックのコンサート「フラ・イズ・アロハ」を開催してきました。学生が授業の一環として運営を行い、ハワイ文化の紹介、イベントプロデュース、国際交流について実践学習しています。

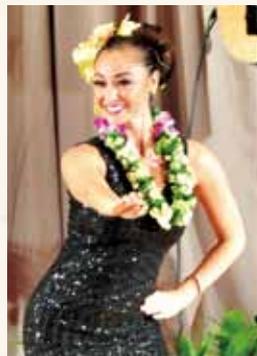
6回目の今回は、9月24日に開催しました。ハワイから有名なミュージシャンや、フラの世界大会で準優勝し、2008年のミスハワイに輝いたフラダンサーを招いて、最高級のショーを企画・開催しました。今回までの6回の開催で延べ3900名の来場があり、収益金総額185万円を寄付いたしました。



コンサート収益金を寄付した学生たち

これまで継続できたのは(1)最高のものを提供(2)廉価(3)趣旨が明確(4)学生主体(5)営利目的ではないことが要因ですが、最も大きな要因は、趣旨に賛同して、毎回来場していただいている地域のフラ愛好家の皆さんの温かいご支援です。心から感謝いたします。

(観光ホスピタリティ学科教授 山根 宏文)



最高級のショーを披露

## わさびソーセージ金賞受賞

健康栄養学科矢内研究室が、ワサビ葉ペーストの提供と製造技術指導、パッケージデザイン考案に携わり、信州塩尻農業公園チロルの森、アルピコ交通との共同研究により昨年発売した「わさびソーセージ」が、この度DLG(ドイツ農業協会)が主催するDLGコンテスト(国際品質競技会)において、金賞を受賞しました。DLGは毎年数千ものハム・ソーセージを審査し、専門家による審査や分析を経て厳重に評価されるものです。矢内研究室は、地域食材を



金賞を受賞したわさびソーセージを使った食品素材を開発するとともに、新商品が生まれやすい地域連携型のシステム開発を行ってきました。このシステムにより、雇用が生まれ、最終的には子育て支援に結び付けばと思っています。(健康栄養学科専任講師 矢内 和博)

## 廣田教授「科研費」審査委員で表彰

大学院健康科学研究科の廣田直子教授が、独立行政法人日本学術振興会から平成28年度「科研費」審査委員として表彰されました。

日本学術振興会では、学術研究の振興を目的とした科学研究費助

成事業(科研費)を行っており、適正で公正・公平な配分審査を担う審査委員の役割は大変重要なものです。この審査過程において有意義な審査意見を付した審査委員を表彰しており、今年度約5,700名の審査委員の中から表彰者268名が選考され、廣田教授はこの中の1名として表彰されました。

研究者が競争的資金の審査に携わることが、本学においても評価され、研究・教育活動を向上させることにつながるものと考えます。

(管理課長 赤羽 雄次)



## まつもとシニアカレッジ開催

シニア世代の方が「健康」や「長寿」などに関するさまざまな知識を学ぶ「第4回まつもとシニアカレッジ」(主催/まつもとシニアカレッジ実行委員会:松本大学・abn長野朝日放送・市民タイムス)が、11月5、6日の2日間、本学を会場に開催され、延べ550名余の受講者が学びました。

私たちの地域で活躍し健康寿



シニア世代が健康を学ぶ

命の延伸に役立つノウハウを持つ企業や団体の皆さんによる講座や体験コーナーなど計14講座が用意され、本学からは、各教員の専門分野に関係した3講座(感動する旅を創るための100の心がけ、松川村のご長寿が教えてくれた心豊かな暮らし方、認知症を予防する食生活とは)を開講し、受講生は熱心に聞き入り、大変満足した様子でした。また、今年は学食の営業もあり、学生気分も十分に満喫されたようです。継続を望む多くの声が寄せられており、今後も定着させていきたいイベントです。

(管理課長 赤羽 雄次)

## 松商短期大学部前期成績優秀者を表彰

9月29日、松商短期大学部の平成28年度前期成績優秀者の表彰式を行いました。松商短期大学部では、学期末試験の



松商短大の前期成績優秀者

成績における素点平均が高く、履修科目数などの基準を満たした学生上位10名を学業成績優秀者(通称「ベスト10」)として表彰しています。今年度も、2年生10名、1年生10名の計20名が、「学業成績優秀賞」を受賞し、住吉廣行学長より、表彰状が手渡されました。

各学生は、試験成績等においては100点満点中90点を超える高

い平均点を獲得し、より多くの科目にトライしての受賞となりました。他の学生の模範となるにふさわしい努力の成果が、今回の受賞につながったと言えます。

2年生は残りの短大生活をより充実させ、1年生はさらに飛躍のステージにしていきたいと思えます。

(松商短期大学部長 糸井 重夫)

## 男子サッカー部

### 1部リーグへの復帰が決定!



1部リーグ復帰を決めた部員たち

男子サッカー部は北信越大学サッカーリーグ2部プレーオフで優勝し、来シーズンの1部リーグ復帰を決めました。10月30日の決勝戦当日は大学関係者、部員の家族や友人、OB、さらにはやむを得ず途中退部した4年生の元部員等々まで、大勢の方々からの応援をいただきました。まずは、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、私たちは昨年、同1部リーグで8チーム中6位に終わり、その後の入替戦でまさかの敗戦を喫し、2010年以降、5シーズン守ってきた1部リーグからの降格を経験しました。今年は長野県選手権でAC、長野パルセイロに善戦するなどの成果を挙げることもできた一方で、このような力のある選手たちを1部リーグの舞台で戦わせてあげたいと何度も思う、少々歯がゆいシーズンでもありました。5名の4年生たちは1部復帰を置き土産に引退となりますが、その意思是後輩たちが引き継ぎ、来年は再び挑戦者として日々精進していく所存です。

なお、OBと現役生で作るセカンドチーム「FC.マツセロナ」も、来シーズンの県リーグ昇格を決めました。今後とも温かいご声援を、されど時には厳しいご指導もよろしくお願いいたします。

(男子サッカー部部長兼総監督 齊藤 茂)

## 女子ソフトボール部

### 新人戦 4年ぶりの優勝!

第23回北信越大学男子・女子新人ソフトボール選手権大会(以下新人戦)が10月15、16日に福井市で開催され、本学女子ソフトボール部がリーグ戦4戦を4勝0敗と完全勝利で4年ぶりの優勝旗を手にしました。過去3年間、いずれも金沢学院大学に失点率などの僅差の勝負で敗れていましたが、今年は4-0の完封勝ちでした。

春の北信越大学選手権大会は全日本インカレの出場権をかけているため、一切妥協をしない戦いで連覇を続けている本学ですが、新人戦は文字通り下級生や試合への出場経験が少ない選手の活躍の場として捉えた戦い方をしてきました。しかし、今年はベストメンバーで戦いました。

今年、これまでと違った戦い方をした最大の理由は、来年度の北信越地区のインカレ出場枠が減少することが予想されるためです。これまで北信越地区は2校のインカレ出場枠がありましたが、来年度からは北信越地区2位のチームは、九州地区2位のチームとインカレ出場を懸けた決定戦を行い、勝者がインカレ出場権を得るシステムに変更される予定です。そのため、これまで通りの形でインカレ出場権を獲得するためには、北信越地区での優勝が絶対条件となることから、新人戦とはいえ、少しの隙も見せない戦いをする必要があったのです。

本学を取り巻く状況は決して楽観視できるものではありません。より一層のチーム力強化

に努力していきますので、今後ともご支援をお願いいたします。

(女子ソフトボール部部長兼監督 岩間 英明)



新人戦で完全優勝

## 陸上競技部

### リレーでの活躍が光った1年

今シーズンの活動を振り返ると、9月に埼玉県熊谷市で開催された日本インカレに、2013年に並ぶ史上最多タイの3名の選手(いずれも4年生)が出場し夢の舞台を満喫しました。更に今シーズンは男女ともに、リレー種目での活躍が光りました。5月の北信越春インカレ(長野市)では、男子1600mRで3位に入り、インカレのリレーで初の表彰台となりました。続く7月の北日本インカレ(札幌市)では、女子1600mRが2位、同400mRが3位となり、10月の北信越秋インカレ(福井市)では女子1600mRで初優勝の快挙を成し遂げ、同400mRでも3位となりました。

また、地域の小中学生の陸上クラブや少年野球チーム等への陸上教室も積極的に実施し、地域社会に貢献・還元する姿も多く見られました。

現在は冬期練習の最中であり、既に来シーズンへ向けた挑戦が始まっています。今後もお世話になりますが、よろしくお願いいたします。(Rはリレーの略)

(陸上競技部 顧問 白澤 聖樹)

## 硬式野球部

### 来年度の1部昇格を目指して

硬式野球部は9月より関甲新学生野球連盟2部の秋季リーグに臨み、最終節までもつれた優勝争いに加わったものの、最終的にリーグ2位の成績でシーズンを終了しました。過去2季連続してBクラスに低迷しましたが、現3年生を中心とする新体制に、新たに清野友二コーチも加わるなど大学の支援もあり、チームは大きく変貌を遂げました。左右の主戦である高田大輝君(観光ホスピタリティ学科4年)と大坪右京君(同3年)が勝負どころでそれぞれ2連投で勝利を収める一方で、1、2年生の台頭も著しく、今まで弱点であった守備面でも再三ピンチを凌ぐなど勝負強さが見られました。第1節こそ山梨学院大学に連敗を喫したスタートでしたが、終盤で6連勝し来季につながる戦いとなりました。

来季こそは2部優勝と1部昇格を果たすべく、部員一同頑張りますので応援宜しくお願いいたします。

#### 平成28年度 関甲新学生野球連盟 秋季リーグ戦

大学名	山梨学院	常 磐	埼 玉	茨 城	松 本	群 馬	順位
山梨学院	●0-7 ●2-6	○4-0 ○11-1	●2-3 ●0-10	○10-3 ○4-3	●7-8 ○8-1		4
常 磐	○7-0 ○6-2	●0-3 ●1-6	○3-0 ○6-1	○11-0 ●1-4	●3-4 ○6-0	○4-2 ○9-0	1
埼 玉	●0-4 ●1-11	●0-3 ●1-6	●1-3 ○9-8	●2-3 ●1-3	○2-1 ○10-0		5
茨 城	○3-2 ○10-0	●0-11 ○4-1	○3-1 ●8-9	●1-3 ●1-6	○8-0 ○3-0		3
松 本	●3-10 ●3-4	○4-3 ●0-6	○3-2 ○3-1	○3-1 ○6-1	○13-0 ○4-2		2
群 馬	○8-7 ●1-8	●2-4 ●0-9	●1-2 ●0-10	●0-8 ●3-0	●0-13 ●2-4		6

# 卒業研究発表会に向かって

健康栄養学科 教授 高木 勝彦

寒さも一段と増し、冬の訪れを感じるようになった11月のある日の朝、実験をやるためにいつもよりちょっと早めに出勤。車もまばらで大学は静まりかえっていました。白衣に着替え、小走りに階段を駆け下り、いざ実験室に入ると実験台はゼミの4年生でほぼ満席。実験機器の音が響き、室内は熱気を帯びていました。正直びっくりしました。この時期、卒業研究のために必死に実験を行っている光景はよく見ますが、朝早くからこんなにもたくさんの学生が実験をしているのは、見たことがありませんでした。

思えば、この学生たちが入室したのは約2年前、当初は本当に実験をされるのか、正直不安に思ったこともあり。健康栄養学科の学生は、特に3、4年生になると通常の授業の大変さに加え、就職活動、国家試験の勉強、卒業研究と何重もの課題がのしかかります。そのような状況の中で、見事に就職を勝ち取り、現在は国家試験の勉強をしながら、卒業研究に立ち向かっています。この1年間で立派に成長したな、その成長ぶりに熱いものがこみあげてきます。

卒業研究とはいっても、学生たちは実験

技術も未熟で直ぐに結果を出せません。個人の差こそあれ、一定のレベルになるまでいくつかの山を越えなくてはなりません。投げ出したいこともあると思います。ある学生に「なかなかデータが出なくて大変だけど大丈夫?」と声を掛けると、「実験は楽しいです。」と満面の笑みが返ってきました。大変だけれど楽しい、私も同じ思いです。

12月中旬の卒業研究発表会まで残すところあと僅か、学生たちは、与えられた研究テーマを全うしようと必死に実験に励んでいます。納得のいく成果が出るよう願うばかり…。あとはこの卒業研究を通して、学生たちが一歩も二歩も成長したことを実感できるよう、教員としても精一杯応援したいと思います。

## 2017年度 入試日程

### ■ 総合経営学部 (総合経営学科・観光ホスピタリティ学科/各学科 定員80名)

試験区分	募集人員		会場等	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	総合経営	観光ホスピタリティ					
一般	一般A	15	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月10日(火) ~ 1月27日(金)	2月4日(土)	2月15日(水)	3月1日(水)
	一般B	3	松本大学		2月5日(日)		
	一般C	2	松本大学		2月23日(木)		
センター	センター利用Ⅰ期	6	松本大学	1月10日(火) ~ 2月3日(金)	2月23日(木)	2月15日(水)	3月1日(水)
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学		3月9日(木)		
	センター利用Ⅲ期	2	松本大学		3月13日(月)		
その他	留学生後期	若干	松本大学	2月6日(月) ~ 2月17日(金)	2月23日(木)	3月2日(木)	3月16日(木)

### ■ 人間健康学部 (健康栄養学科・スポーツ健康学科/各学科 定員80名)

試験区分	募集人員		会場等	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	健康栄養	スポーツ健康					
一般	一般A	20	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月10日(火) ~ 1月27日(金)	2月4日(土)	2月15日(水)	3月1日(水)
	一般B	3	松本大学		2月5日(日)		
	一般C	3	松本大学		2月23日(木)		
センター	センター利用Ⅰ期	10	松本大学	1月10日(火) ~ 2月3日(金)	2月23日(木)	2月15日(水)	3月1日(水)
	センター利用Ⅱ期	3	松本大学		3月9日(木)		
	センター利用Ⅲ期	3	松本大学		3月13日(月)		

### ■ 教育学部 (学校教育学科/定員80名)

試験区分	募集人員		会場等	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	商	経営情報					
一般	スカラシップ	7	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月10日(火) ~ 1月27日(金)	2月4日(土)	2月15日(水)	3月1日(水)
	一般A	28	松本大学		2月5日(日)		
	一般B	3	松本大学		2月23日(木)		
センター	スカラシップ	3	松本大学	1月10日(火) ~ 2月3日(金)	2月23日(木)	2月15日(水)	3月1日(水)
	センター利用Ⅰ期	11	松本大学		3月9日(木)		
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学		3月13日(月)		

### ■ 松商短期大学部 (商学科・経営情報学科/各学科 定員100名)

試験区分	募集人員		会場等	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	商	経営情報					
一般	一般A	6	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月10日(火) ~ 1月27日(金)	2月4日(土)	2月15日(水)	3月1日(水)
	一般B	2	松本大学		2月5日(日)		
	一般C	2	松本大学		2月23日(木)		
センター	スカラシップ	6	松本大学	1月10日(火) ~ 2月3日(金)	2月23日(木)	2月15日(水)	3月1日(水)
	センター利用Ⅰ期	2	松本大学		3月9日(木)		
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学		3月13日(月)		
その他	留学生後期	若干	松本大学	2月6日(月) ~ 2月17日(金)	2月23日(木)	3月2日(木)	3月16日(木)

### ■ 松本大学大学院健康科学研究科健康科学専攻 (一般・社会人共通)

試験区分	募集人員	会場等	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
大学院 後期	3	松本大学	1月10日(火) ~ 1月27日(金)	2月5日(日)	2月15日(水)	3月1日(水)

## 受験前の疑問を解決 入試相談会

[日時] 2017年1月19日(木)、20日(金) 10:00~15:00

## 春のオープンキャンパス開催!

[日時] 2017年3月20日(祝) 10:30~16:00

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問合わせください。

[www.matsumoto-u.jp](http://www.matsumoto-u.jp) ☎0120-507-200

## 編集後記

蒼穹の題字に「地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今」とあるように、松本大学は地域と切っても切れない固い絆で結ばれている。それは大学の理念「地域貢献」、使命・目的である「地域社会に貢献できる人材の育成」を開学以来、堅実に守り通している証である。

来年は松商短期大学創立から65年目、松本大学としては16年目を迎える。来春には教育学部が新設され、松本大学は3学部5学科、松商短期大学部と大学院からなる特色ある私立総合大学として新たなステージが始まる。「ひとづくり」「まちづくり」「健康づくり」にますます拍車がかかる。この地に根付き、地域に期待される大学として、研究に教育に教職員、学生が一体となり大学の理念の下、気持ちを新たに胸躍る新春を迎えたい。(記・入試広報室長 中村 文重)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1  
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290  
<http://www.matsumoto-u.ac.jp/>